

聖徳学園岐阜教育大学

国語国文学 既刊号総目次

創刊号（昭和五十七年三月十日）

創刊の辞

漱石『こころ』……………佐々木啓一

―関係存在の享受と拒絶―

明治歌壇と岐阜(1)……………貞光 威

―根岸派の人々を中心として―

俳句教材とその指導……………小瀬 渺美

―小・中学校の場合―

『一握の砂』における三行書きの問題……………田中 宏枝

新美南吉と蝸牛詩碑……………加藤 淳美

聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会 規約……………

昭和五十六年度岐阜教育大学国語国文学会予算……………

設立総会の記……………

昭和五十六年度卒業研究題目……………

第二号（昭和五十七年十二月二十日）

支考の俳壇経営 (1)……………小瀬 渺美

鳥鬼の吟……………横山 寛吾

子どもの文章形態について……………岸 武雄

―特に小学校低学年の場合―

井上靖研究……………鈴木由佳里

―作家形成上の一内因―

芭蕉がみちのくの旅に求めたもの……………森竹 順子

学ぶ喜びを味わい読解力を高める国語指導……………飯田ひろみ

―感想を生かした問題作りを重視して―

昭和五十七年度卒業研究題目……………

聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会 規約……………

昭和五十七年度役員……………

昭和五十七年度学会行事……………

第三号（昭和五十九年一月十日）

島尾文学におけるカトリシズムの諸問題……………佐々木啓一

『死の棘』成立の周辺より―

摺針峠……………横山 寛吾

伊藤左千夫の万葉集評釈……………貞光 威

支考の俳壇経営……………小瀬 渺美

「国の花」を中心に―

子規と愚庵……………室岡 和子

柿本人麻呂の歌に見える古事記的なもの……………位田 玲子

石川啄木と彼の故郷住民……………山本真規子

―短歌にみる思郷性について―

漢字教育について……………峯村 琴美

説明文の指導……………冠者ひろみ

―低学年の実践から―

読む力の育成をめざして……………山田 裕子

―説明文教材を通して―

昭和五十八年度卒業研究題目……………

聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会 規約……………

昭和五十八年度学会行事……………

昭和五十八年度学会役員……………

第四号（昭和六十年二月一日）

済南紀行……………横山 寛吾

教育実習における国語の授業……………岸 武雄

伊藤左千夫 人脈考（上）……………貞光 威

「東山万句」考……………小瀬 渺美

―支考勢力の拡大―

△実践記録から▽

文学教材における語句指導……………伊藤いずみ

読みを深め、心情を豊かにするために

『三太とタヌキのしっぽ』から

△実践記録から▽

漢字の指導 ―小学校四年の場合―……………南谷 浩美

日記から見た樋口一葉……………山本 裕子

浅見綱斎について……………木下真千子

日本漢語と中国語……………清水 智子

昭和五十九年度卒業研究題目……………

昭和五十九年度研究生研究題目……………

聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会 規約……………

昭和五十九年度学会行事……………

昭和五十九年度学会役員……………

雪かがーっぽて……………竹端 瞭一

―新発田方言の形容詞―

……………

第五号(昭和六十一年一月二十日)

- 伊藤左千夫 人脈考(下)……………貞光 威
- 岡山県方言における敬語法……………坂田 祐子
- 『智恵子抄』論……………高林 敬子
- 読書指導について……………山口 早代
- ―自ら学ぶ 心豊かな子の育成をめざして―
- 雪ございて あべや……………竹端 瞭一

―新発田方言の動詞―

- 昭和六十年卒業研究題目……………

- 昭和六十年度研究生研究題目……………

- 報告……………

- 聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会 規約……………

- 昭和六十年学学会行事……………

第六号(昭和六十二年三月二十日)

- 江村北海と濃北紀遊……………横山 寛吾

- 「話型」へのとらわれと反発の前に……………一川 鐵夫

―読みとりの場の話し合い―

- 自評論争覚え書き(1)……………池田 一彦

―宮崎三昧「吾亡妻」とその周辺―

- 二つの「道程」……………高林 敬子

- 荘子 ―逍遙遊篇……………福田 聡美

- △卒業研究▽『湖北のことばとくらし』抄……………松居 香代

- 高等学校教科書「国語I」「国語II」における

- 近代俳句教材……………貞光 威

- 雪ふつつ ―新発田方言の副詞―……………竹端 瞭一

第七号(昭和六十三年二月十日)

- 太宰 治『津軽』論……………佐々木啓一

- ―自閉のなかの「宿命」の世界―

- 芭蕉と誓子……………小瀬 渺美

- ―「取り合わせ」を中心に―

- 大垣 雑 詩……………横山 寛吾

- 児童の「読みとり抵抗」の分析……………一川 鐵夫

- 雪 お ろ し……………竹端 瞭一

- ―新発田方言の名詞と文末表現―

第八号(平成元年三月十五日)

- 道成寺伝説から『京鹿子娘道成寺』へ……………安田 徳子

- 広瀬旭荘、高山に来る……………横山 寛吾

自評論争覚え書き (二) ..... 池田 一彦

― 緑雨の「『吾亡妻』は偽物なり」をめぐって―

茂吉の見た左千夫 ..... 貞光 威

― 継承と反発と―

「ごんぎつね」における主題指導に

関する考察 ..... 一川 鐵夫

△実践記録▽楽しく豊かに読める子を

めざして ..... 鶴飼 紀子

― 基本的な事項の指導を通して―

「馬酔木」総目次および索引 ..... 棚橋 純子

### 第九号 (平成二年三月十五日)

「かすみ」詠の変遷 ..... 安田 徳子

― 和歌表現の展開と漢詩―

谷川俊太郎「朝のリレー」私解 ..... 池田 一彦

広瀬旭荘の来濃 ..... 横山 寛吾

フランス人の日本観 ..... 菊池 淑子

「アカネ」総目次および索引 ..... 貞光 威

平成元年度卒業研究題目 ..... .....

聖徳学園岐阜教育大学国語国文学会規約 ..... .....

報告 ..... .....